

| | |
|--|--|
| 国土交通大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small> | 受賞者名 |
| | 前田建設工業株式会社 武蔵小杉M 作業所 |
| | 所在地 |
| | 神奈川県川崎市中原区 |
| | 受賞テーマ |
| | 「廃棄物分別管理システム」の展開 ～最終処分量ゼロに向けた取り組み・大規模オフィスビルから住宅へ～ |

前田建設工業株式会社は、一昨年の大規模オフィスビルの新築工事において、「廃棄物分別管理システム」を採用し、混合廃棄物の大幅削減に成功した。受賞者は、このシステムを工種や材料の多い集合住宅の工事へも展開するための実証を行い、その有効性（混合廃棄物排出量 約 8 割削減）を確認した。

また、PC 化、システム型枠、床スパンクリート等の採用により木製型枠の使用を削減し、さらに、現場で発生した建設発生木材をパーティクルボードの製造施設に搬出し、再生品を資材として利用している。

今後、この成果を踏まえ、本・支店とともに“中・小規模の作業所でも活用できる仕組み”の検討を進めていく。

また、同システムを開発した大木組や ASP 業者と連携し、建設業で広く利用するための汎用化についても協力し、建設業界の 3 R 活動の推進に貢献しようとしている。

1. リデュース（木製型枠の削減）

同工事は、上層部を PC 積層工法とし、木製型枠の使用を削減しているが、地下および基壇部分（3F）の施工においても、柱、梁の PC 工法採用の他、以下の活動により木製型枠の使用量削減を推進した。

【活動内容】①システム型枠の使用 ②床スパンクリートの使用 ③鋼製床板（フラットデッキ）の使用

2. リサイクル

（1）廃棄物分別管理の推進

一昨年度、前田建設工業株式会社は「廃棄物分別管理システム」をオフィスビルの工事に導入し、混合廃棄物の大幅削減に成功した。その成果を、オフィスビルと比べ、材料の種類や施工にかかわる協力会社が多い集合住宅でも展開できるか検証することを、この工事における 3 R 推進のミッションとした。

総排出量については、排出予測システムにより“実績と目標を見える化”を行い、総量としての管理を実施している。

（2）建設発生木材のマテリアルリサイクルの推進

作業所から排出される建設発生木材のマテリアルリサイクルを推進するため、①パーティクルボードをグリーン調達品目を選定、②作業所で発生する木材を再利用するための基本契約を締結、③再生できない木くずについてはグループ会社のサーマルリサイクルで発電利用するしくみを、2005 年から運用している。

受賞者においても、380 t の建設発生木材の内 124 t を東京ボードに直送し、50,734 m²（20mm 材で 756 t 相当）のパーティクルボードを再生資材として利用した。

